

### 3-9 第9分科会「秋田のイネ新品種『ゆめおぼこ』誕生物語」まとめ

#### 担当 寺井謙次

分科会テーマ	秋田のイネ新品種「ゆめおぼこ」誕生物語
担当者・メンバー	担当者 寺井謙次 メンバー（6名） 宇佐美隆章 加藤武志 佐藤隆亮 七尾佑二郎 佐藤弘理 吉野 想
活動の概要	今年度から本格栽培が始まった、秋田で育成されたイネ新品種「ゆめおぼこ」に注目し、育成の背景や誕生の経緯を探りました。その過程で、秋田県の稲作事情や稲育種の今後の課題等についても調べました。
活動のプロセス	<p>分科会における活動のプロセスを、項目を追って段階的に述べていきます。最初に、「ゆめおぼこ」についての調査を始める前に、わが国における稲の育種の歴史とその社会的な背景を学び、それを踏まえて、秋田県の稲作事情と新品種「ゆめおぼこ」について調査を行いました。</p> <p>項目を順に述べれば、1)日本における近代育種が明治時代に始まり、大正・昭和にいたる間の歩みを著名品種で辿り、2)育種目標の変遷を育種技術の進歩から見ていくこと、3)昔の品種（多収性品種）と今の品種（良食味品種）の違いから米についての社会的ニーズの変化を理解すること、そして、4)秋田の稲作事情の変化と「あきたこまち」の誕生に触れ、最後に、5)「あきたこまち」との差別化を目指す「ゆめおぼこ」の育成がなぜ必要になり、この品種がどのようにして生まれたのか、という流れで研究しました。</p>
まとめ	<p>「ゆめおぼこ」の育成は、秋田県の気候や風土に適した早生～晩生までの良食味品種のラインナップ確立の一環として、早生の「あきたこまち」に続く中生の品種として作られたものであること、さらに今後は、晩生の良食味品種の育成が課題であることを学びました。</p> <p>また、秋田県では現在、「あきたこまち」や「ゆめおぼこ」のような「おいしいお米」の育成だけでなく、他用途米や飼料米としての「超多収品種」の育成も進められていることなどについて理解を深めることができました。</p>